



「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」プログラムの体験 暗闇だからこそ見えてくること ～豊かな世界に生きる感動～

NPO・社会起業推進検討部会では、9月29日にNPO法人ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンによる完全な暗闇の中で行われるプログラムを体験した。渋澤健部会長をはじめ13名が参加し、視覚が利かない不便を味わうと同時に、視覚を除いた四感が研ぎ澄まされる感覚や密度の濃いコミュニケーションを経験した。

渋澤健部会長あいさつ

視覚障がい者は、頼りになる「能力」の持ち主



渋澤健部会長

「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」(以下、DID)は、暗闇の中で視覚に頼らない時間を過ごすわけですが、実際に体験してみると余計な雑念が払われ、逆に目が開かれた思いがし

ました。現代人、なかでもとりわけグローバル競争にさらされている企業の経営者には重いプレッシャーがかかり、雑念に惑わされることも少なくないでしょうから、これを払うには有効かもしれません。また、体験される前の経営者の若干こわばっていた表情が、体験された後では、すっかりほぐれていたことが印象的でした。暗闇の中で、私たちは視覚障がい者を頼りに行動しますが、この過程で、彼らは「弱者」ではなく、頼りになる「能力」の持ち主であることに気付かされました。本日の体験により、あらためてNPO・社会起業家の魅力を感じました。



杖を持って暗闇の中に入って行く参加者たち。



イベントが終わり、アテンドを囲んでの意見交換会。

DIDとは？ 視覚以外の感覚が研ぎ澄まされる体験

DIDは、まったく視覚が利かない暗闇の空間で、歩く、遊ぶ、飲むなどの行動を体験するプログラム。白杖を頼りに手探りで進む施設内では、“暗闇のプロ”である視覚障がい者がアテンド(案内)を務め、体験者をサポートする。

1989年にドイツの哲学者、ハイネッケ博士が発案し、世界25カ国で

600万人が体験。目隠しなどを使わず自然な暗闇の中で体験すること、チームで体験しコミュニケーションを取り合うこと、視覚障がい者のアテンドがあること。この3点さえ守られていれば、体験内容はさまざまに工夫できる。日本ではNPO法人ダイアロ

グ・イン・ザ・ダーク・ジャパンが運営し、2009年3月から東京都渋谷区に施設を構えている。本プログラムは、有効なコミュニケーション・ツールとして注目され、企業向けの研修も始められている。

「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」 詳しくは<http://www.dialoginthedark.com/>

DID を体験した会員の感想

- 体験中は、視覚以外の他の感覚を意識的に使っていると感じました。闇の中に置かれたものを手触りで判読しましたが、それが何だったかは目で見るより鮮明に覚えています。視覚障がい者をこんなに力強く感じ、頼りに思ったことはありませんでした。よりフェアな社会をつくるきっかけをつかめたと思います。
- 視覚がまったく利かないという環境の中、助け合うことと共感することの大切さが学べました。企業の研修でも使えると思います。嗅覚、触覚、聴覚が研ぎ澄まされていくことが実感できました。
- 視覚に頼らないことで、外界の刺激を受ける感触がまったく新しい形で伝わってきました。一見ハンディキャップに見えることが、必ずしもそうでなく、大いなる新しい力になるということを会社に持ち帰り伝えたい。
- 真っ暗の世界で目が開く、素晴らしい体験でした。雑念を取り払う空間と時間を過ごすことができました。
- 見える・見えない、解る・解らな

いという二項対立、二律背反の世界こそ幻想ではないかと感じる体験でした。体験メニューをもっと深化すれば、気づき効果も高まると思います。

- 言葉で表せない、何ともいえない感動がありました。初めて自分が“人間だ”と意識しました。闇の中では日ごろ気になっている雑念を一切忘れていました。
- 参加者が一体となり、感じ、助け合う“場”を体験できてよかった。社員にも体験させてあげたいと思いました。
- 2回目の体験です。初めてのときよりも、さらに心が和らぎ広がっていくのを感じることができました。アテンドの方の優しさや思いやりが感じられ、リードも素晴らしく、途中から「見えない」ということを意識しなくなっていました。
- 2回目の体験だったので、少し慣れた気がします。暗闇でも初回ほど恐怖を感じませんでした。人の話をよく聞く訓練になると思いました。
- 視覚を除いた感覚や言葉が生活していく上で極めて重要であるとあ

らためて痛感しました。

- 視覚を当たり前としてはいけないと感じました。見えることはありますが、実は視覚により惑わされていたり、視覚以外の四感が鈍っていることも分かった。水の音や草の香りがとても染みてきました。
- 素晴らしい体験でした。目を使わないことで、こんなにも豊かな世界が広がることに感動しました。一步一步かみしめて歩くことの確かさ、香りの豊かさ、音の素晴らしさが染みてきました。オレンジジュースのおいしかったこと。アテンドしてくださった方の手は温かく、あらためて素晴らしい世界に生きている人たちだと感じました。人と人との触れ合い、きずなはとても温かいものだと感じました。

参加者によるプログラムの評価	チームワーク	4.7点
	コミュニケーション	4.7点
	五感の豊かさ	4.7点
	パートナーシップ	4.5点
	視覚障がいへの理解	4.5点
	共有体験の創生	4.5点
	信頼関係の醸成	4.5点
	ダイバーシティ（多様性）	4.1点
	リーダーシップ	3.8点
	マネジメント	3.5点

※参加者による5点満点評価の平均点

ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン 代表 金井真介氏あいさつ

“障がい者だからこそできる仕事”を創出します

2009年3月、念願かなって長期開催施設を持てました。開設後1年半で、3万5000人もの方がDIDを体験しています。こうした施設があると、視覚障がい者の雇用が生まれます。この仕事は、目が見えないという特性があるからこそできる仕事なのです。アテンドの一人は、関西に住んでいましたが、点字図書館での点訳という恵まれた仕事を辞め、この施設で働きたいと上京してきま

した。なぜ安定した仕事を辞め、リスクな仕事に飛び込んだのか。彼女はこう言います。「見えなくてもできる仕事でなく、見えないからこそできる仕事をしたい」と。また、「人との出会いがある仕事がしたい」とも付け加えます。

今春から企業向けの研修も始めています。完全な暗闇の共同体験により、リーダーシップ向上、コミュニケーション能力向上、ダイバーシ

ティへの理解などが期待できます。そんなDIDをぜひ利用していただければと期待しています。



代表
金井真介氏